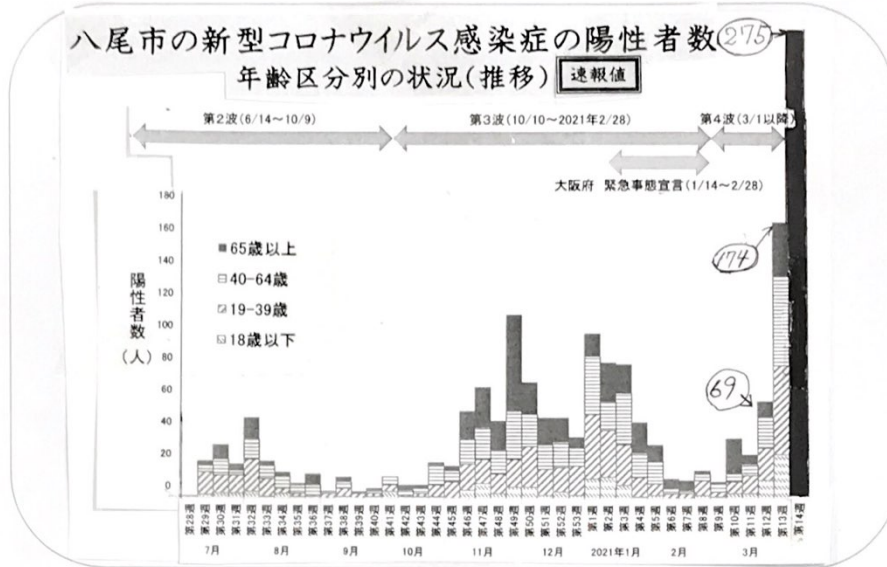


第4波の感染爆発のもと緊急対策こそ必要

高齢者施設等・医療機関・学校などで集中検査を！



大阪では、第4波に突入し感染爆発が起きています。八尾でも人口比で大阪市内を上回る新規感染者が発生。ところが、4月臨時議会で提案された緊急コロナ対策の補正予算(総額11億円)では、集中検査の予算は5%の5千万円のみ。市内の高齢者施設等の約半分が対象で職員のみです。補正予算は現状と大きく乖離しています。

検査予算の増額と生活支援こそ！ (4月臨時議会補正予算)

大阪では、感染者が急増し、「医療非常事態宣言」も出されました。医療でもひっぱくは深刻で、現場では「命の選別が始まっている。」と悲痛な声が上がっています。

変異株の影響も懸念されており感染力が強く、子どもも感染しやすく、重症化のスピードが早いと指摘されています。第3波とは違う、第4波の特性を踏まえた緊急の手だてが必要です。しかし、政府、大阪府、八尾市の対応はあまりにも不十分です。

第3波の時、クラスターを防止し、重症化を防ぐための無症状感染者対象の集中検査が行われました。

しかし、八尾市内の高齢者入所施設等は約半分しか実施されず、しかも職員のみ。検査を実施しなかった施設からクラスターが相次ぎました。

4月臨時議会の補正予算の集中検査予算も、前回と同額です。今回は、市内すべての高齢者施設・障がい者施設の入所者にも広げた検査が必要です。感染者が相次ぐ医療機関や学校、学童・就学前施設の職員にも広げるべきです。検査予算を5千万円から4億円に増額すれば実現できます。

キャッシュレス決済ポイント還元は中止を

補正予算では、総額の半分にあたる5億円を、半年後に実施するキャッシュレス決済のポイント還元に使おうとしています。

今すぐ、市民に平等にゆきわたる生活支援こそ実施すべきです。

4月21日(水)が最終本会議です。採決や討論が行われるので、ぜひ傍聴に来てください。市役所10階本会議場、10時から。